学校番号	３１８

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	歴史総合　新訂版　むすびつく世界と日本　（実教出版）						
副教材等	歴史総合　新訂版　演習ノート　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この科目では日本が世界の一部分として存在しているという視点から歴史を考察することにより、日本の今までとこれからの関わり方を学ぶことができます。これからの時代を主体的に生きていく力の一助になればと思います。

2　学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを時期や年代、推移・比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚・我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・近現代史の歴史的事象について、世界の歴史とのかかわりに注視しながら、日本の歴史を理解できている。 ・欧米やアジアの近現代史について理解できている。 ・学習課題について、さまざまな資料を適切に活用し、説明したりまとめたりすることができている。	・歴史的な事象について、その背景を理解した上で自分なりに考え、まとめたり発表したりすることができている。 ・世界と日本のかかわりを踏まえて、諸課題を多角的・多面的に考察することができている。	・日本の歴史を理解したうえで、世界の国々に興味・関心を持ち、自国の歴史や文化と同様に他国の文化や歴史を理解・尊重できている。 ・より良い社会の実現を視野に、学びを活用して学習上の課題の解決にむけて自ら考え取り組むことができている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	近代化と私たち1	1. 近代化への胎動 2. 欧米の市民革命と国民国家の形成	a: 18 世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会、立憲体制と国民国家の形成を理解している。 b: 18 世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 近代ヨーロッパの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。	定期考査 授業中の確認テスト	定期考査 授業中の確認テスト等	学習状況の観察 プリントや副教材の記述

2学期	近代化と私たち2	1. アジアの変容と日本の近代化 2. 帝国主義の時代	a: 立憲体制と国民国家の形成、列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 b: アジア諸国と欧米諸国との関係の変容、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 19世紀半ばのアジアと世界の歴史の変化に関わる諸事象、19世紀末～20世紀初頭の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	定期考査 授業中の確認テスト	定期考査 授業中の確認テスト等	学習状況の観察 プリントや副教材の記述
	国際秩序の変化や大衆化と私たち	1. 第一次世界大戦と大衆社会 2. 経済危機と第二次世界大戦	a: 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がり、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 b: 第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 1910～1920年代の歴史の変化と第二次世界大戦前後の世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。			

3学期	グローバル化と私たち	1. 冷戦と脱植民地化 2. 多極化する世界 3. グローバル化と現代社会	a: 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につけている。 b: 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用して、グローバル化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 c: 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを主体的に見いだそうとしている。	定期考査 授業中の確認テスト	定期考査 授業中の確認テスト等	学習状況の観察 プリントや副教材の記述

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度